

問題一

問い一 A 含意 B 奉納 C 根拠 D 抹消 E 覇権

問い二 日本人も宗教的な行為を行なっているが、当たり前前の日常として生きているがゆえに意識されないだけである。(50字)

問い三 一見通約不可能に見える差異性も、生活習慣というレベルで見れば、互いに理解され得るということ。(46字)

問い四 他の文化内にある多様な差異やせめぎあい、ゆらぎや葛藤が見えなくなるから。

自文化に対する批判的な認識を欠いた「文化相対主義」を生みだしてしまうから。

問題二

問い一 学問は不朽の価値の探究を目的とするものなのに、それに変遷を意味する「流行」の語を冠しているから。(48字)

問い二 流行終息の後に、学問的価値のないものばかりが残っている状況。(30字)

問い三 「流行の学問」は、その学に社会の関心が向けられる契機となるという面もなくはないが、不朽の学問的価値よりも新奇を追い、それに乗り遅れまいとする軽薄な心理に基づくものであり、真の学問であるとはいえない。(99字)

問題三

少数の対象に国民的規模での関心が集中していた時代に比べ、現代では人々の関心は多様な対象を涉獵するという形で分散している。それは一面では同調圧力からの解放を意味するが、他面では共有性と持続性を前提とする文化が希薄化してしまったことを意味する。そうした状況のなかで、思考や行動の指針を得られなくなった若者たちは、電子メディアを通して友人たちとの親密なコミュニケーションによってそれを補償しようとしている。(200字)